

# 介護老人保健施設しおさい

**症 例 概 要**      利用者:60代 男性 要介護1

利用期間:令和2年3月～通所リハビリテーションを利用

病名:脳梗塞 脳血管性パーキンソンニズム

既往歴:糖尿病

経過:50代で脳梗塞を発症し、右半身軽度麻痺。3年後2度目の脳梗塞を発症し、リハビリを行い退院となったが、家業を辞める事となる。また両親と三人暮らしをしていたが、父親も脳梗塞を発症し、右半身麻痺となる。そんな中、利用者さんの「一人で外を歩けるようになりたい。」とのご希望により、リハビリの一環として令和2年3月より通所リハビリテーションのご利用となる。

## 内 容

利用当初は「一人で歩けるようになりたい。」と希望されていましたが、すぐによくない現状からの諦めからか、積極性は見られず、うつむき加減でずっと座られていました。病前は自営業でお客様と明るく接していた利用者さんでしたが、他者との交流を避け、雑談の中にも入る事はなく、常に気難しい顔をされていました。手指運動、脳トレなど、興味を持ってもらえるような事はないかと、お誘いしましたが「いい」の一言で取り組もうとはせず、うつむき、何もしていない時間を改善することが出来ませんでした。思い通り身体が動かすことが出来ないことへの過大なストレス、年齢が若く、高齢者施設に対しての抵抗、気力の低下があると感じた職員は、少しでも自信を取り戻してもらう為に、コミュニケーション強化を図る為の会話を試みました。最初の頃は会話が続きませんでした。就職していた時のことや自営業をされていた時の話しに変え、傾聴することで、少しずつですが、会話が進むようになり、利用者さんにも変化がみられてきました。利用時より「一人で外を歩けるようになりたい」との希望に歩行練習を提案してきましたが、それまで「いい」の一言で取り組もうとしなかった利用者さんが、渋々ながらも承諾して下さるようになり、職員付き添いの元、歩行練習を取り組まれるようになりました。開始当初は歩行も不安定な為、多職種で連携し改善を図り、1周約50mの施設内を職員が付き添い目標を利用者さんと一緒に立て取り組んでまいりました。また、ただ歩いているだけだとつまらない為、他者の行っている施設内を歩いた距離を置き換える全長444kmの「伊豆八十八カ所霊場巡り」へ参加。しかし、距離数が多く、次の札所へはなかなか辿りつけず、達成感を得られにくいことから、少し短い特別コー



ス「伊豆1周観光めぐり」を考案し、参加していただく事にしました。渋々だったこともあり、初めは何回か断られましたが、回数を重ねるごとに自信がついたのか歩かれる回数が増えていき、職員の付き添いがなくても、安全に歩行できるようになり、当初の目標を達成しております。最近ではお声がけしなくても、自主的に訓練に向かわれるようになりました。そして、徐々にではありますが手指運動、脳トレ、物作りイベント等にも参加して下さり、他利用者さんとのコミュニケーションが図れるようになっていきます。また、ご自宅への送迎時、しおさい物作りイベントで作った鼻のブローチを、お母様がエプロンにつけており「作ってプレゼントしてくれたの」と見せてくださり、その場にいた利用者さんの照れくさそうな顔と、本当に嬉しそうなお母様の笑顔でとてもあたたかな時間となりました。現在、利用当初の目標を達成した利用者さんは、次なる目標に向かって頑張られております。次の目標は体力を向上させ病前、喫茶店を営業していたときに利用していた、近くのお店に買い物に行くことだそうです。その姿は自信に満ちあふれ、しおさい新聞での掲載 NG だった顔写真も快く承諾して下さるようになり心境の変化が感じられます。今回、ご本人希望の目標を設定し達成していくことでの喜びと、今後の新たな目標へのチャレンジによる意欲が利用者さん本来の表情(笑顔)に繋がる症例となりました。